

大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第11回地域生活部会議事録  
 文責：青山（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第11回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和6年9月17日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	小松代 菜央	池田 栄美
	小林 寿江	南雲 好晶	相澤 あゆみ	青山 明子
	平井 有希子	金丸 正明	広瀬 健次郎	松浦 好美
	区事務局：土岐 親跡 齋藤 小西 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認、書類確認</li> <li>・部会のスケジュールの確認</li> <li>・司会-伊藤部会長、書記-青山委員</li> </ul> <p>(2) 令和5・6年度の活動について</p> <p>①社会に出てからの生活（就労、住まい、成人期のサポートの仕方、休日の過ごし方など）について委員をスピーカーとして、支援者側からの情報提供についてお話しいただいた。</p> <p><u>A委員</u></p> <p>○ヘルパーが定着しない理由について（休日支援の課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周りに障がい者が理解されにくい。（大声を出してしまう、パニックになる等）</li> <li>2. 強度行動障がいの方の外出支援を行う行動援護は、数年間の移動支援の経験が必要で、かつ研修を受けなければならない。したがって受講しない事業所が多く、強度行動障がいの方も移動支援サービスとして支援している場合が多い。支援者に手が出てしまい、辞職につながったケースもある。</li> <li>3. ヘルパーが怪我を負っても、補償金額が少なく、労災保険でしか出せない。</li> </ol> <p>○情報提供について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援学校の先生から生徒のことで相談を受けることがある。先生と事業所が連携することで生徒の生活力につながる。</li> <li>2. グループホームから、円滑に本人の支援を進めるための相談を受けることがある。世話人に休日の本人の状況や様子について情報共有している。</li> <li>3. 相談支援事業所とは、3か月に一度モニタリングを行う際に状態像や将来像について共有している。本人のADL（日常生活活動度）を向上させ、生活を安定させるために何が必要か検討している。</li> <li>4. 移動支援事業所のネットワークがあるため、事業所同士で情報提供を行ったり交流をしている。ヘルパーを採用</li> </ol>			

	<p>する際も事業所間で連絡を取ることがある。</p> <p>5. 家族支援では、子どもの様子を詳細に話さない家族があるため、子どもの特性を家庭と事業者の双方で理解し合うことが大事と考えている。</p> <p>②第9回を振り返り、中間報告で取り上げたい項目について意見交換をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ロコミや親同士のコミュニティが大事。同じ立場の方同士で悩みやリアリティのある体験談を共有することができる。</li><li>・障がいについてのリーフレットを公的機関に置いたり、母子手帳に情報を載せることで、落ち着いて情報をキャッチすることができる。</li><li>・最初に関わった方と連携することで不安の軽減につながる。孤立せず、雑談を通して打ち解けられる仲間づくりが必要。</li><li>・保護者が障がい受容できる情報の提供について。</li></ul> <p>2 その他</p> <p>○今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・10月「社会に出てからの生活について」今回欠席されたスピーカーの委員から話してもらう。</li><li>・10回11回のまとめ</li></ul> <p>○次回開催日</p> <p>作業部会 10月8日（火）は中止 専門部会 10月18日（金）</p>
--	--